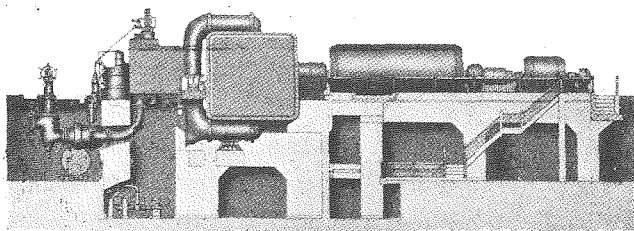
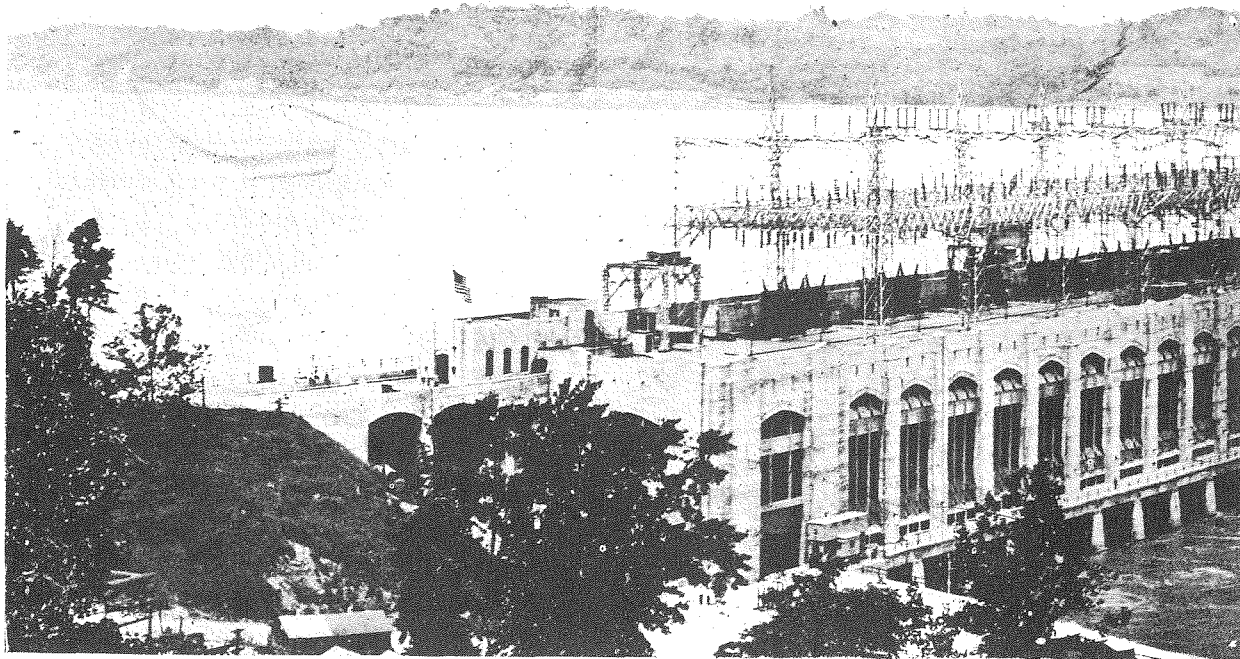


尖頭負荷用に建設せられたる世界 發電所及堰堤の全景

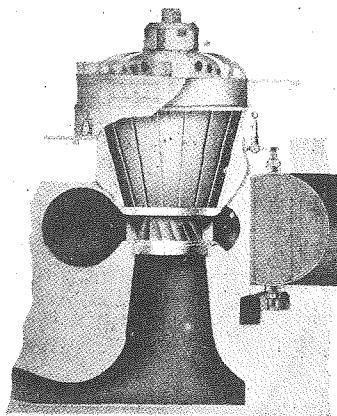


ウォーターとスチームの比較

右の寫眞はカナウインゴ-發電所の水車と發電機の斷面圖であるが、左は同馬力のスチームタービンの斷面圖である。

カナウインゴ- (Gonowing) 發電所は The Philadelphia Electric Co. の計畫になるもので、サスコハナ河 (Susquehanna River) 河口より 12 哩の地點に在る低落差の發電所である。本號に紹介した東信電氣會社の鹿瀬發電所に對照して參考すべきものである。

有效落差	90呎
最少流量	2,200個
最大流量	750,000個
水車	54,000馬力 7臺

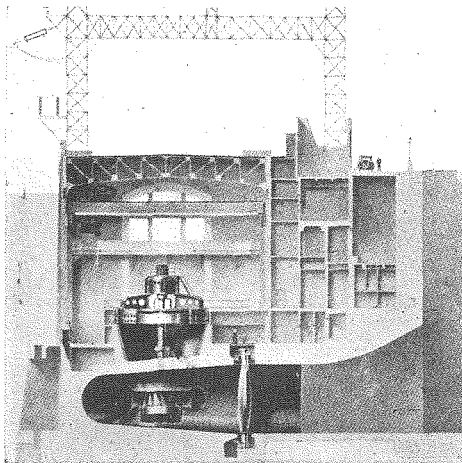
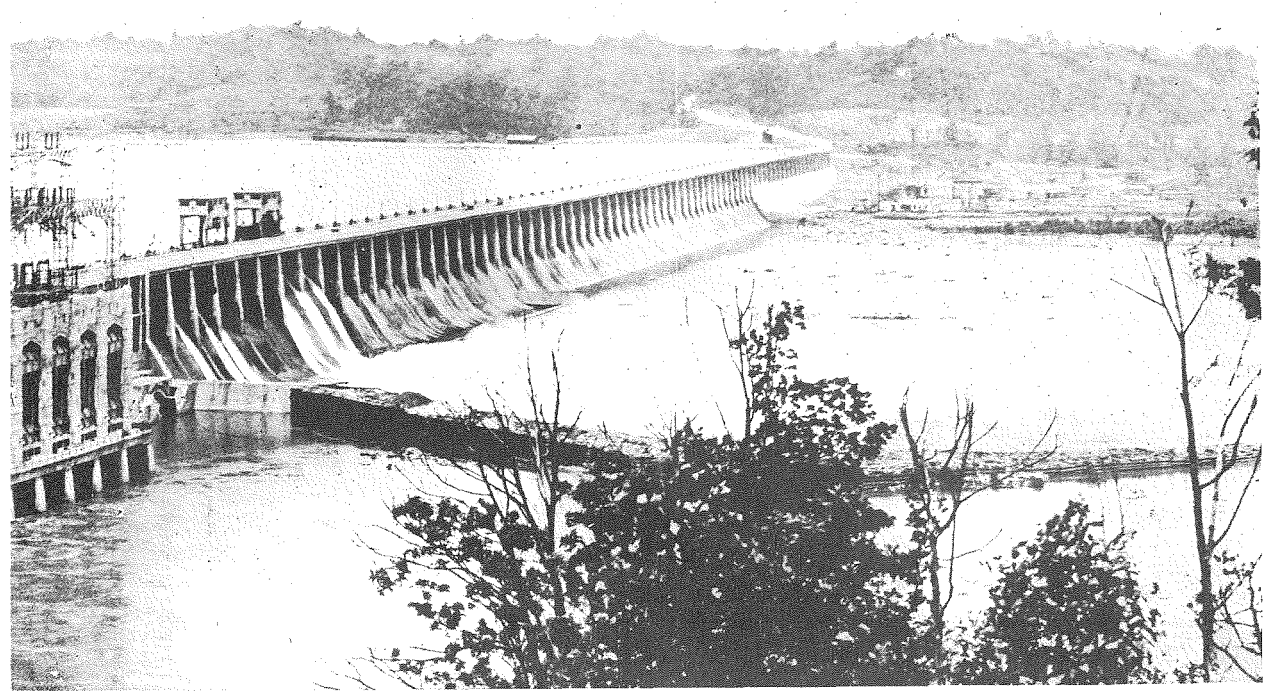


(現在出力 378,000馬力であるが
將來 600,000馬力に増加の豫定)

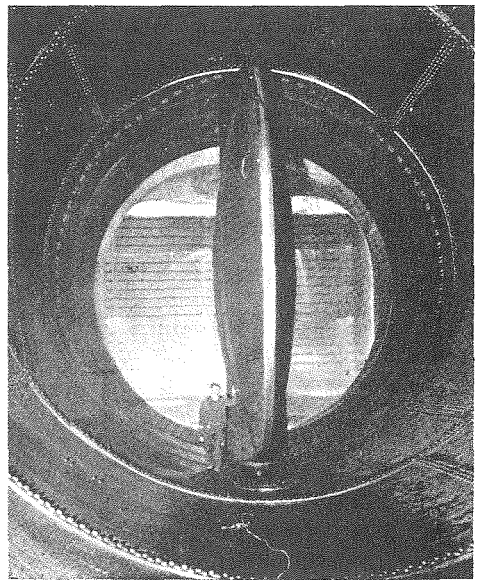
堰堤長	約 1哩
同最大高	105呎
掘鑿數量	約 62,500立坪
コンクリート施工量	約 88,000立坪
以上の工事は設計、施工、金融一切をストーンウェブスターで引受け實施したものである。	

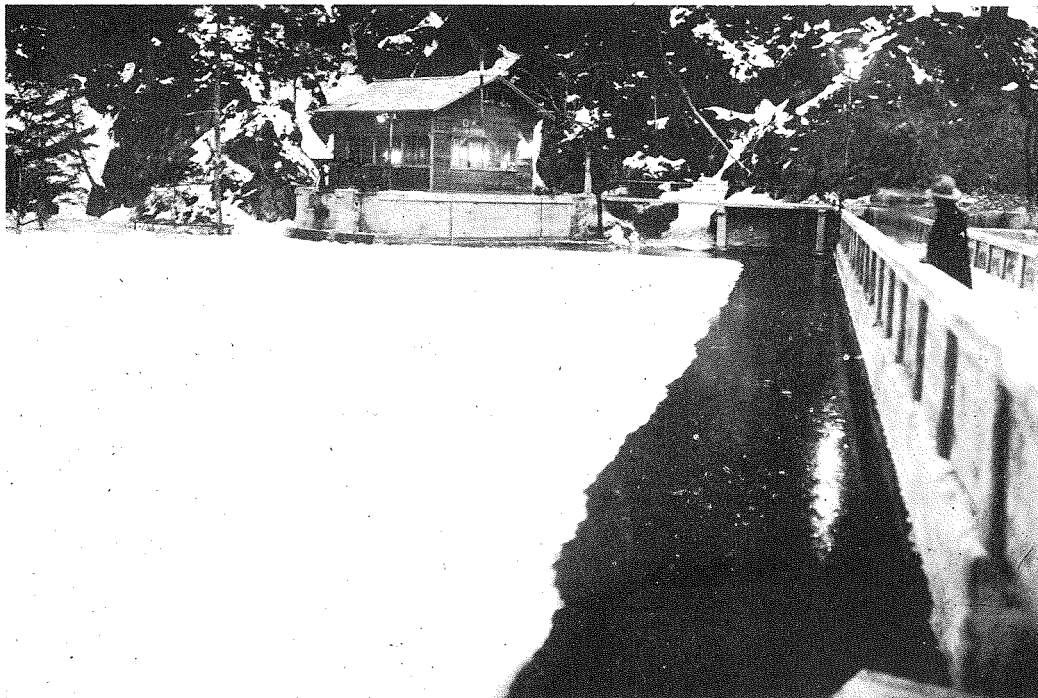
最大のカナウインゴー発電所

(設計施工者ストーンウェブスター會社より鶴田勝三氏に贈られたる寫眞及び報告書の一部より)



上の寫眞はカナウインゴー発電所の斷面であるが右は其のバタフライバルブを擴大寫眞に示したものである。





第 2 圖 田代川取入口氷結防止装置の實景

(23頁より續く)…に分ち互に連絡を保つ事とし、組立數日前沓鐵を据へ置く組立方法は先づ「カンバーブロック」を「ステージ」の沈下を見込み所定高より中央にて約一寸上げ越して配列したる後固定端より始め兩側同時に下絃材を据へ次に(組立圖示の順序により)垂直材及對角材上絃材を配列し兩側構桁の連絡に「スエーピング」の一部分のみを取付置き主構桁の組立中央迄進みたる時「トラベラー」を後戻りせしめて下部綾構床桁及縦桁上部綾構の順に取付けたる組立には一日職工四十五人を使役し平均五日間にて一連分を組立てたり。

(3) 鉸 鉸 工 事

鉸鉸は全部壓搾空氣鉸鉸器を用ひたり「コンプレッサー」は氣筒徑八吋衝程八吋回轉三百五十にして動力は三十馬力電動器にして五十立方尺の野氣筒を有するものを用ひ氣筒内氣壓毎平方吋百封度實用氣壓九十封度乃至百封度とせり。

鉸鉸工は四人を以て一組とし四組を使役し一連の鉸鉸に平均六日間を要したり現場鉸鉸數は拾五萬參千個にし一連に付て九千個なり

(4) 橋 床 工 事

鉸鉸終了したる構桁より順次混凝土型枠を取付たり型枠は四徑間分を作り順次轉用するものとせり其構造は厚一寸板に二寸角棧木を打付け縦桁の下部突縁を支承とする梁木上に固定せり型枠の取付終れば鐵筋を所定の位置に配置せり混凝土は十切練「コーリングミキサー」動力七馬力半)を地盤に据へ付け練上りたる混凝土は高九十尺「エレベーター」(動力十五馬力)により床上に運び床上に軌條を敷きて十切人手押可傾運搬車により所定の個處に運搬す。

(5) 路面 舗 裝 工 事

路面に「アスファルトブロック」長二百四十耗巾百二十耗厚五十耗のものを使用し「クッションモルター」は十三耗とす。

路面横斷勾配は中央にて側より二寸五分高くし拋物線形とし鐵の型版を地覆上に摺らし検査しつつ施工せり。

(6) 塗 裝 工 事

光明丹一回錆色ペンキ二回を現場塗りとし日本ペイント會社A號にして鐵道省車輻規格に合格したるものを使用せり。